

# まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 79

## 伝統の長持奉納!

春の例大祭で  
五穀豊穡と地域の安寧を祈る

(撮影 2026.4.12 野溝諏訪社)

# 湧き上がるボランティアへの情熱 「源智の井戸を守り隊」発足一年

「源智の井戸」は歴史や利用者の数を見ても、市内21カ所ある「まつもと城下町湧水群」の代表です。いま、そこを支え維持するボランティアも湧水群を代表する活動に。

昨年4月の結成時には14人だったメンバーも39人に増えて、男性29人、女性10人です。20代から80代まで各年代から参加しています。今後も増員予定で、活動も月1回から2回に増やしました。

参加者の内、20人が第二地区以外です。企業や学校関係者の参加のほか「鯛萬の井戸お掃除隊」とお互いの活動に参加し合う連携も図られ、活動の広がりを見せています。作業内容としては、井戸の中の玉砂利の藻を取りながらの清掃が大変です。しかし、水中ポンプの使用で作業の効率化を提案する人が現れるな



枠を外して玉砂利の清掃が大切



市内外から大勢の利用者

ど、人材が増えたことによる相乗効果も見えてきました。また「モーニング会」といった懇親会などで相互のコミュニケーションを深めつつ、まだまだ増員し、活動回数も増やそうと意気盛んです。

## 市長への手紙で前進

平成元年に「井戸を守る会」が発足し、その後「井戸と花の会」と継続されたものの、高齢化や協力者の減少により、令和6年には、活動を断念するところまで追い込まれました。しかし、当時一人のボランティアとして参加していた中隊長が、自身の経験から市長へ

の手紙に、活動存続のための思いを託しました。その結果、地域づくり支援課や第二地区地域づくりセンターの支援体制が生まれ、わずかな準備期間で隊の発足が実現しました。現市長もその後ボランティアに参加し、共に取り組みました。

## 更なる高みへ

金田センター長は、今後について、行政の取り組みが湧水群全体を包括した支援体制にシナカシ、守り隊の活動が、安定して継続してほしいと、熱い思いを語ります。

また中隊長は、周辺住民、利用者、行政の三位一体による協働の重要性を強調し、一層の進展へ抱負を話します。絶え間なく湧き出るこの情熱が、活動をさらなる高みへと導き、やがて同種活動の先駆けとなることでしょう。



水路もきれいに!

ボランティアに関するお問い合わせは、第二地区地域づくりセンターまで。☎三九一三六〇一

## わがまち自慢 第一地区

### 「せせらぎ」を美しく

伊勢町通りの歩道両側には、せせらぎがあります。伊勢町商店街振興組合が維持管理を担い、近年では外部委託による清掃を行っていました。ところが、令和5年3月に組合が解散し、伊勢町1・2丁目町会が引き継ぐこととなりました。しかし、清掃を町会で実施するにあたり、高齢化や人手不足といった課題に直面することとなりました。



見違えるほどきれいに!

町会、協力企業、行政関係者が合同で参加する活動へと発展しています。昨年10月は、市内の一企業から地域貢献として40人が参加し、11月には、地域学校協働活動推進委員の発案で、筑摩小学校3年2組の生徒28人が参加しました。

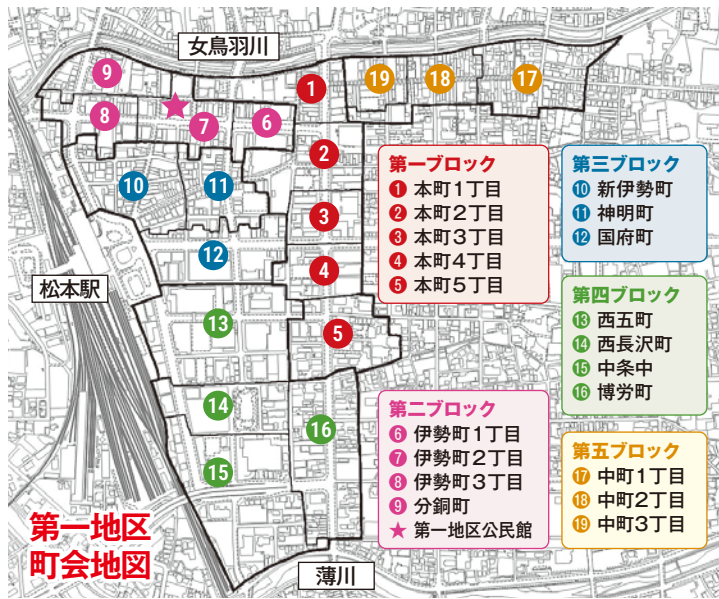
作業は2時間ほどですが、参加者はみな一生懸命で見違えるほどきれいになります。



エクスラン高校・園芸農業コース3年生 4月15日撮影

今年3月、ボランティア参加者全員対象の食事を町会主催で開催し、懇親を深めています。見事に難局を乗り越えた活動責任者の高島さんとの場さんは「水辺でくつろぐ外国人観光客や、はしゃぐ子どもたちの笑顔を絶やさないうために、せせらぎは地域の宝として引き継いでいきたい」と意欲的に取り組んでいます。





再発見!! まつもと地名がたり 17  
 昔も今も商業の地  
 第一地区

江戸時代からの城下町と松本駅開業からの市街地

第一地区はJR松本駅の東側で、女鳥羽川と薄川にはさまれた19町会で構成されています。

江戸時代から続く町会

16世紀半ばに武田氏が深志城(現松本城)を統治の拠点として始めた城下町の整備は、17世紀後半の水野氏の治

世でほぼ完成しました。その中で、親町と呼ばれた本町と中町、そして本町の枝町であつた伊勢町は、当時の町の名称が現在の町会名となっています。伊勢神宮から勧請した神明宮にあやかつて命名されたのが伊勢町、前号の「旧町名碑めぐり」で取り上げられた通り、馬喰が転じて命名されたのが博労町です。

本町一丁目、伊勢町一丁目、三丁目、博労町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、西五町、西長沢町、中条中、博労町、新伊勢町、神明町、国府町、西五町、西長沢町、中条中、博労町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、伊勢町一丁目、伊勢町二丁目、伊勢町三丁目、分銅町、第一地区公民館



神道祭の曳行展示 壮麗に並ぶ舞台

明治維新後の町会

明治維新以後、特に1902年の鉄道開業後に街としての整備が進んだ西側のエリアです。分銅町は、駅と千国街道(今町)をむすぶ道沿いで、その開道に功績のあつた犬飼氏の屋号に由来します。新伊勢町は、伊勢町を結ぶ新しい道。神明町は、伊勢町にあつた神明宮よりさらに駅寄りにあつた神明宮の周辺の町。国府町は、駅前がかつて松本にあつた国府の名にふさわしく栄えるようにとの願いを込めて。西五町は、本町五丁目の西側に広がった町。西長沢町は、長沢川の下流域(西側)といった理由で命名されました。

**松本平の野鳥たち**

キビタキ (2021年5月松本市アルプス公園 写真提供:信州野鳥の会)  
 スズメよりほんの少し小さな野鳥。夏鳥としてほぼ全国に渡って来て繁殖。オスは良く目立つ橙色と白・黒の配色はカラフル。その鳴き声も明るく大きな歌声からアルプス公園では一番の人気者。オオルリが樹木のてっぺんで囀るのに対し、中間あたりの枝が好み。

**まつもと散歩**

小さなぬくもりが  
 優しさになる  
 そんな毎日を...

(撮影: 2026.4.5 女鳥羽川)